

● 新神楽舞「木花咲耶姫」

産後、ふと「娘のために残してあげられるものって何だろう・・・」と考えました。その時に「娘のために神楽を創ろう」と思い立ったことが創作のきっかけでした。

娘は「木花咲耶姫」にあやかって名前を付けたので、娘に感謝をお伝えしたかったですし、神楽師として新作を創るというハードルの高いことに挑戦したい気持ちもございました。

関東近辺の里神楽では、新作はほとんど見受けられません。しかし、環境が変わりゆく中で、人々の求めているものは昔とは確実に変化しています。

昔のものを昔のまま見せることもまた「魅せる」技術が必要です。その「魅せる」手段は、もっと進化させる必要があります。

日本人として生まれ、古典を愛する私にとって、古の日本を現代の方々へお伝えし、その魅力を知っていただくことが、使命だと思っています。

【あらすじ】

木花咲耶姫は桜が咲き誇るようにそれは美しい女神であった。

ある日姫はアマテラスオオミカミの孫ニニギノミコトと出会い瞬時に恋に落ち結婚した。

一夜にして身籠った姫。

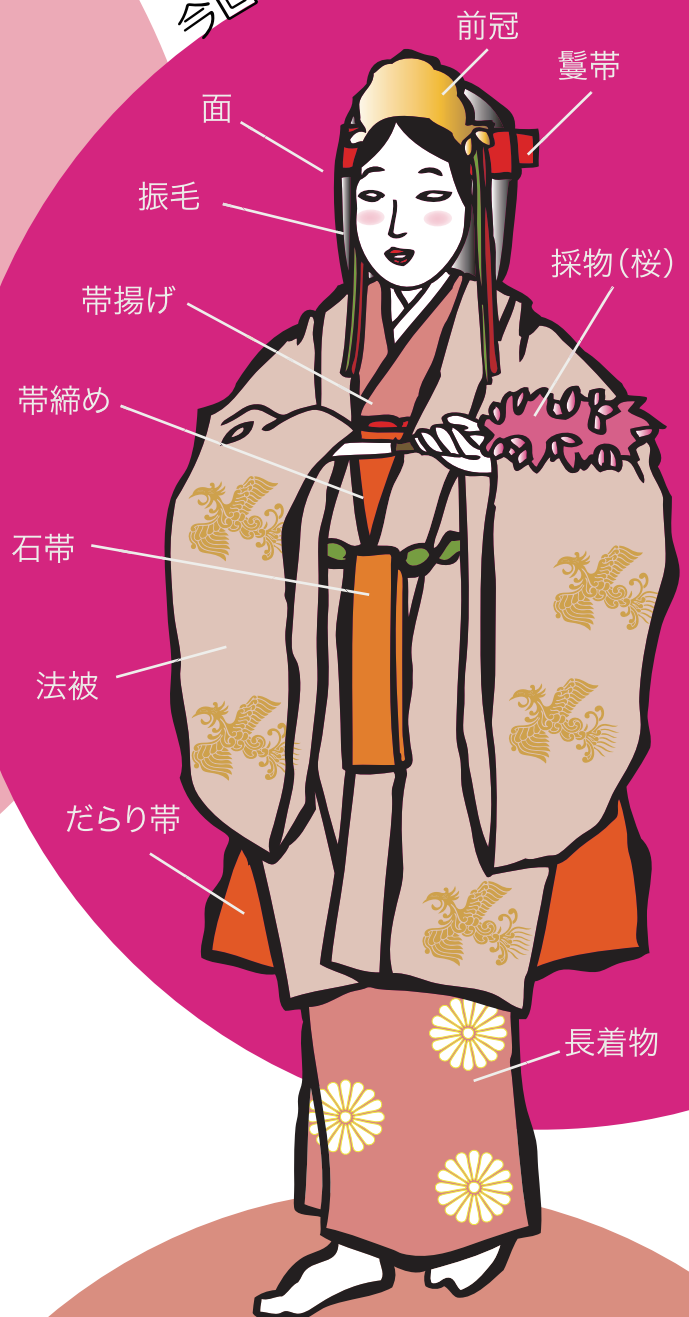
ニニギは疑い国津神の子ではないかと問う。姫は激怒しニニギの子と証明するため灼熱の炎に包まれ独りで産むことを告げた。

無事に産まれたならば、ニニギの御子。そう言い放ち自ら産屋に火を放ち燃え盛る炎の中姫は独り、戸を閉めた。

長い長い時が流れた。
大きな産声と共に現れたのは強く逞しい三柱の御子。
後の初代天皇の祖先となる子が無事、出産された。

古の神代の時代に生きた強く気高き桜の女神の物語。

今回の姫の装束はこちら



● ワークショップ

今回のワークショップは、皆様に姫になっていただきます!姫が登場する出端(では)と呼ばれる部分です。

ポイントは・・・

- ◆基本姿勢と足の運び方
- ◆拝と三つ首
- ◆視線と見得

しかし、もっとも大事なものは。。。感情表現です!ぜひ役者になった気持ちで演じてみてください。出稽古ということで、皆様にお稽古場でのレクチャーを体験していただきたいと思います。